

「ゆめのか」におけるハダニ類の防除対策

H27.9.28
農産園芸課技術普及班

ハダニ類の重点防除事項

「ゆめのか」は「さちのか」よりも茎葉が繁茂しやすい草姿のため、1株当たりのハダニ密度が高くなりやすく、農薬が葉裏まで十分かかりにくいと推測されます。このため、ハダニ類に効果の高い薬剤を育苗初期から使用し、株冷入庫前と定植後の薬剤防除、秋季および春先の天敵カブリダニ類放飼を実施し、ハダニ密度を低く抑えましょう。




対策
ランナー切り離し前(6月中旬)に効果的殺ダニ剤を散布

スターマイトフロアブル、ダニサラバフロアブル、コロマイト水和剤 等

注意点
天敵に長期間影響が見られる薬剤は使用しない(育苗期間の使用を控える)

有機リン系; マラソン乳剤
カーバメート系; ランネート45DF
合成ピレスロイド系; アーデント水和剤、アディオン乳剤、マブリック水和剤 等
ピラゾール系(殺ダニ剤);
ダニトロンフロアブル、サンマイトフロアブル 等

ダブルフェースフロアブルは天敵に長期間影響があるので6月上旬にハダニが多発している場合に使用する



ナミハダニ

対策
土着天敵に影響の少ない薬剤を使用してハダニを防除する

ハダニ対策: 気門封鎖剤(粘着くん液剤等)、カネマイトフロアブル、ニッソラン水和剤 等
アブラムシ類対策: モスピラン顆粒水溶剤(7月まで)、チェス顆粒水和剤、コルト顆粒水和剤 等
ヨトウムシ類対策: フェニックス顆粒水和剤、トルネードエースDF 等



土着天敵
ハダニアザミウマ

注意点
土着天敵に影響がある薬剤は8月以降使用しない
ネオニコチノイド系; モスピラン顆粒水溶剤、バリアード顆粒水和剤 等
IGR系; マッチ乳剤、カスケード乳剤、アタブロン乳剤 等
その他; プレオフロアブル

対策
株冷入庫前(8月中下旬)に効果の高い殺ダニ剤で防除

コロマイト水和剤、アフファーム乳剤(福岡農試結果) 等

定植苗活着後(9月中旬頃)に効果的殺ダニ剤で防除

スターマイトフロアブル、ダニサラバフロアブル 等

【H27感受性検定結果概要】
(長崎県病害虫防除所)

コロマイトWP	(4 / 5)
マイトコーネFL	(1 / 5)
ダニサラバFL	(2 / 5)
スターマイトFL	(5 / 5)
ダブルフェースFL*	(5 / 5)

()内は、感受性地点 / 調査地点数は結果の概評
*ダブルフェースFLは天敵に長期間影響があるので、導入する場合は使用しない

注意点
定植前にハウス周辺の除草を徹底し、ハダニの侵入防止に努める

対策
天井ビニル被覆(10月中旬頃)をめどに効果の高い殺ダニ剤で防除(ヨトウムシ類との同時防除も)


アフファーム乳剤 等

秋季(11月上中旬頃)にカブリダニ類による防除を実施

天敵導入前の徹底防除(11月上中旬、ゼロ放飼)
スターマイトフロアブル、ダニサラバフロアブル、コロマイト水和剤(本剤は2週間前までに使用) 等

天敵導入前にハダニ多発の場合、天敵に影響の少ない薬剤で追加防除(10月下旬)
カネマイトフロアブル、気門封鎖剤、 等

ミヤコカブリダニ5000頭 / 10a放飼(11月中旬)



天敵
ミヤコカブリダニ


対策
12~1月に発生が見られる場合気門封鎖剤(粘着くん液剤等)を連続散布(7日毎、2~3回)

チリカブリダニによる防除
ハダニ増加前の2月上旬に、**チリカブリダニ4000頭 / 10a**放飼

3月上旬に追加放飼
チリカブリダニ4000頭 / 10a

注意点
天敵放飼前にハダニが発生しているときは、天敵に影響の少ない薬剤でハダニ密度を下げてから放飼する(気門封鎖剤、カネマイトフロアブル 等)

天敵放飼後、局部的にハダニが多発した場合は、天敵に影響の少ない薬剤を多発箇所にスポット散布する



天敵
チリカブリダニ

対策
3月以降に多発した場合薬剤防除による密度低下 + 天敵の追加放飼

気門封鎖剤の連続散布または殺ダニ剤散布(使用回数を守る)

チリカブリダニ4000頭 / 10a(多発箇所中心に放飼)

でおさまらないときは、薬剤防除と天敵放飼を繰り返す

それでも対応できない場合は天敵の利用をあきらめて、効果の高い殺ダニ剤(ダブルフェースフロアブル等)の使用で対応する

【薬剤散布時の留意事項】

- 株が繁茂していると薬液が葉裏まで付着しにくいので、十分量の薬液を確保し、ていねいに散布する
- 散布ムラが見られるときは湿展性の展着剤を加用する